

成果指標				
成果指標	利用件数			
指標設定の考え方	適正な施設管理により、利用件数の増減が考えられる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標26年度
目 標	600	600	600	0
実 績	366	335	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	経年劣化による修繕箇所が増加しており、利用者が安全で安心して利用できる施設として計画的に修繕を行うなど、適切に施設管理を行う必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	経過年数とともに、老朽箇所も増加傾向にあり、定期的な点検と計画的な修繕が必要であり、施設利用者が常に安全で安心して利用できる施設として、適切な施設管理に努める必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	